



くすの木

基本理念：地域に信頼され親しまれる病院を目指します。

野村病院だより「くすの木」は、医療法人メディカルパークのトピックスやイベント等をお知らせする情報満載の季刊誌です。

毎日新聞出版刊 毎日ムック 2026年1月28日 発売掲載

病院最前線 2026に

当院の内藤 健太医師の 特別インタビューが掲載されました!

Vol.102
2026.6

情熱医療 プロフェッショナルドクター
ロボットを用いた人工関節置換術

パソコンやスマートフォンから
特設サイトにて掲載内容がご覧いただけます

プロフェッショナルドクター 野村病院



身体へ負担の少ない
膝関節治療を追求し
最新のロボットを用いた
人工関節置換術を導入



私の記事も
読んでね!

当院の寺山 弘志理事長兼病院長の
特別インタビューも2023年版に掲載されています!

情熱医療 プロフェッショナルドクター
人工関節置換術

寺山医師の
特別インタビューは
こちらから▶

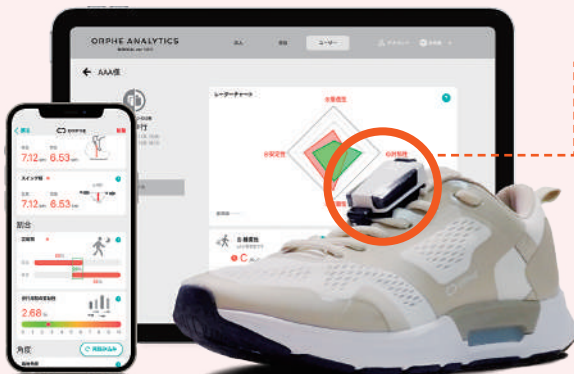


医療向け 歩行分析のDXソリューション

お知らせ

ORPHE ANALYTICS MEDICAL を導入しました!

定期的計測により、術前・術後や介入前後など変化の程度を把握できます。



一般医療機器のセンサーデバイス

ORPHE CORE MEDICAL

クリップで簡単に靴に取り付け、
すばやい計測が可能



【当院の導入事例インタビュー】

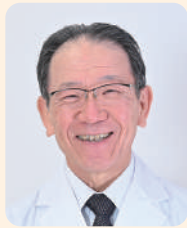
靴につけて歩くだけ
高精度な歩行分析が誰でも気軽に

客観的な歩行の「可視化」が、
患者様の納得感とリハビリへの意欲を引き出す
～歩行の「対称性」を可視化し、患者様に分かりやすく伝えるために～



三遊間診療を 極める

病院長補佐
多幾山 渉



みなさんこんにちは。病院長補佐の多幾山です。この度は野村病院「病院だよりくすの木」に投稿する機会を得ましたので、前号で少し触れた「三遊間診療」について述べさせていただきます。

野村病院は理事長の交代と共に急速に変革し、2本柱の病院として発展しています。1本目の柱は股関節や膝関節の手術治療を主に行う「人工関節センター」です。手術を受ける患者さんは県下のみならず、全国から集まり、年間500例以上の手術件数をこなし、病院診療の主体をなしています。もう1本は従来から行っている地域医療で、地域のかかりつけ医と急性期病院の橋渡しの診療を展開しています。

今回のテーマ「三遊間診療」は後者に属します。

「三遊間」の語源は、勿論、吉本興業の三遊間ではありません。

もともと野球用語で、三塁手と遊撃手の間の守備範囲(エリア)を指すことは野球好きの広島のみなさんはご存じでしょう。このエリアは守備が手薄になりやすく、打球が抜けるとヒットになりやすい場所です。したがって守備の弱点というのが野球の概念と思われれます。

この野球の概念が転じて、ビジネスでは担当者や部署の責任が曖昧で、誰も対応していないタスクや問題の領域を指すようになりました。例えば、プロジェクト管理で役割分担が不明確な場合や、部署間の連携不足でタスクが放置される状況を表すようです。

実際の使用例としては

「残念ながら忙しくて、三遊間の仕事を拾える余裕はない」
「勝てると思った競合他社に負けた。三遊間を抜かれた気分だ」
「このタスクは三遊間だから、手付かずだったことに誰も気づけなかった」

このように、ネガティブなニュアンスを含むことが多く、業務効率や信頼性の低下を示唆します。

それでは「三遊間診療」はどのようなものでしょうか。

イメージとしては担当専門医が曖昧な領域の診療と言えるでしょう。みなさんが診療を受けるときに、以下のような経験をしたことはありませんか。

「残念ながら専門医がいませんのでその病気は当院では診れません」「この病気は専門外だから他科へ紹介します」「今晚の当直医は専門が異なりますので他を探して下さい」などです。

近年、医療の発展に伴い、従来の臓器別・疾患別の専門医の細分化が進み、専門医の種類は数が増大しています。その反面、それぞれの守備範囲が狭くなってきました。この守備範囲のスキマが、少子高齢化が進む我が国の医療制度のなかで、大きな問題となってきました。

その解決のために作られたのが総合診療専門医制度です。一般社団法人日本専門医機構によりますと、「総合診療専門医は、患者の全身的・生活背景を含めた健康問題に対応し、地域医療の質向上に貢献する専門医で、特定の臓器や疾患に限定せず、幅広い視野で患者や家族を診る「オールラウンドプレイヤー」です。体調不良の際にどの診療科を受診すべきか迷う患者に対して、初期診断から必要に応じた専門医への紹介、生活習慣や心理的側面のケアまで包括的に対応します。また、高齢者や複数の慢性疾患を抱える患者に対しても、全身を診ることで医療負担を軽減し、在宅医療や地域包

括ケアにも関与します」と説明されています。総合診療専門医になるには、医学部卒業後の初期研修を経て、日本専門医機構認定の総合診療専門研修プログラムを受講し、筆記試験や面接試験に合格する必要があります。実際にこの専門医が全国に普及し、医療現場で本来の目的通り活躍するにはかなりの時間が必要と思われる。

現状では、総合診療専門医は主に大病院の総合診療科で活躍されているようですが、新たなスキマ問題を生じないように成長して欲しいものです。

今迄の話から、「三遊間診療」とは専門医間のスキマを埋める意味合いが浮かんだと思います。ビジネスでの使用状況に習い、医療においても「専門領域があやふやな病気」「複数疾患が重複した患者」「専門的治療の適応外の患者」などのように、専門性が曖昧で専門医が手を付けない、診療科間で見落とされがちな診療に対して「三遊間診療」という表現が使えるのではと思いついたわけで、決して正式に認められた名称ではなく、野村病院版総合診療のことを、私が勝手に「三遊間診療」と名付けたのですが、実際は地域から医療連携室に紹介された患者、或は外来にいられた患者は、全て守備範囲です。

野村病院周辺地域においても、高齢者の増加は著しく、高齢者医療は最も重要な課題です。高齢者の身体的特徴としては運動機能低下、肉体の脆弱化、体力の低下、排泄能力の低下、食欲不振、嚥下機能低下、低栄養、脱水等が挙げられ、また、精神的特徴としては認知機能障害、うつ状態、自信喪失等があげられます。

さらに、重要なのが社会的特徴で、孤独、高齢夫婦所帯、老々介護、独居老人等、社会とのつながりの希薄化の増加及び経済的貧困化です。

このように高齢者疾患の特徴は高齢者の肉体的、精神的、社会的特徴の上に複数の病気を合併していること、今までの長い人生において既に様々な専門的治療を受けていること、多くの種類の服薬歴があることなどです。

高齢者疾患の治療はこれらの特徴を考慮して行われます。主な病気の治療とともに全身の状況、生活面のケア、社会的状況を見据えた医療を提供しなければなりません。私が野村病院に赴任して1年以上が経過しましたが、その間に様々な高齢者医療を経験させていただきました。人生の終末期を迎えた患者の看取り医療。専門病院で急性期治療を受け、長期療養が必要な患者、全身状態不良で専門的治療のできない患者に対する対症療法や緩和ケア等々。これらの医療を遂行するためには幅広い医療知識、各専門医や多職種との連携、患者や家族に寄り添う共感性などが必要で、一外科専門医として長年積み重ねてきた経験だけではとても足りません。当院の薬剤師、看護師、リハビリテーションセラピスト、放射線技師、介護士等医療スタッフとともに協力しながら、他院の専門医や医療スタッフの助けも借りながら、地域のチーム医療として行っているのが現状です。

この度、前号で少しだけ述べた「三遊間診療」について少し詳しく述べさせていただきました。今後も様々な困難にぶつかりながら「三遊間診療」に挑戦し、地域医療に多少でも貢献したいと思っておりますのでご支援の程宜しくお願い致します。



在宅部門のご紹介

地域の皆さまが住み慣れたご自宅で安心して暮らし続けられるよう、私たちは医療と介護の連携を大切にしながら支援を行っています。
これからも地域に寄り添い、安心と信頼のサービスを提供してまいります。

在宅統括責任者
吉本

ヘルパーステーション「ながつか」（訪問介護）

入浴・食事・生活支援など、日常生活をサポートします。
安心した在宅生活を支えます。

「こころ」に寄り添い、毎日の生活をお手伝い！



訪問看護ステーション「あさみなみ」（訪問看護）

看護師がご自宅へ訪問し、健康管理や医療処置を行います。
医療が必要な方も安心して生活出来ます。

24時間365日 在宅をサポート！



デイサービスセンター「ぎおん」（通所介護）

日帰りを通い、食事や入浴、レクリエーションを楽しめます。
心身の健康維持で自立支援にまっしぐら。

生きてきたこれまでを、生きていく楽園に！



通所リハビリテーション（デイケア）

専門スタッフによるリハビリを行います。
機能回復・維持をサポート。

笑って動いて、心も元気！



居宅介護支援事業所「あさみなみ」

ケアマネジャーが介護の相談、サービス調整を行います。
まずはお気軽にご相談ください。

医療と介護を繋ぎ、ご自宅での暮らしをサポートします！



外 来 診 療 担 当 医 一 覧

科 目	時 間	月	火	水	木	金	土
消化器内科	午前				池田		
	午後				○	長崎	
循環器内科	午前	落海		北川		東	
	午後				○		
外 科	午前		多幾山	小西	多幾山	多幾山	小西
	午後	小西			○	小西	
乳 腺	午前	高永甲・木村	高永甲	高永甲		高永甲	高永甲(第1・3・5)
	午後		高永甲	高永甲	○	高永甲	
整形外科	午前	寺山・作田	内藤	寺山・隅田	寺山・内藤	内藤	寺山(第1・2・3・4) 内藤(第5)
	午後			寺山	○		
神経内科パーキンソン専門外来	午前						久米(第1・3・5) 森野(第2)
神経内科てんかん・頭痛・物忘れ外来	午後			荒木	○		
脳神経外科	午前						
	午後		広島大学(16:00まで)		○	広島大学(16:00まで)	

○…お電話にて、お問い合わせください。

外 来 診 療 の ご 案 内

- 内科(消化器・循環器・呼吸器・内分泌・神経・内視鏡)
- 外科(消化器・肛門・乳腺・呼吸器)
- リハビリテーション科 ●皮膚科
- 脳神経外科 ●整形外科

受付

TEL 082-875-1111

F A X 082-850-2825(地域連携室直通)
受付時間/午前8:30~12:00 午後13:00~17:00

午前中の診療は予約制です。ご予約のない患者様は担当医以外の診察となる場合がありますのでご了承ください。
検査などのご予約は指定時間にご来院ください。

総合診療科 診察時間

	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後 14:00~17:00	○	○	○	○	○	休	休

※ただし初診および急患は予約の有無に限らず随時診察いたします。

アクセスMAP



- 広交バス「祇園出張所前」下車・徒歩3分
- 可部線「下祇園駅」下車・ゆめテラス祇園方面へ徒歩3分



医療法人メディカルパーク
野村病院

〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園2丁目42-14
TEL 082-875-1111 FAX 082-875-6125
https://www.medical-park.jp/